

発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：五反田保育園

取り組み

気になる子への関わりや支援

取り組み期間

3年4月～12月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	個別配慮を必要とする子どもが、1クラスに4～5名おり、集団として動きにくく、クラス運営が難しい場面も多々見られている。対象児も集団の中で刺激を過剰に受けることで落ち着けず、他児とのトラブルも生じやすく本人の安定につながっていない。そこで「気になる子への関わりや支援」をテーマにし、長期目標を「卒園までに『自ら集団に入ろうと気持ちを切り替えられる』ようにする」とし、短期目標を「子どもが保育士と一緒に取り組み、達成感を体験し次につながられるようにする」として、計画を作成した。具体的な取り組みとして、①保育場面でのタイムラグを設ける、②設定保育の場所を個別にする、③保育士との個別保育やグループ保育を計画する、④臨床心理士からの意見も取り入れ進めていくとした。
「D」 計画の実践	子どもたちの状況を報告し、関わり方などについて、職員会議や乳児・幼児会議の話し合いで、全職員への共有化を図り、計画を実践した。臨床心理士のアドバイスも参考にして、取り組みは、4歳の年中児クラスを中心にして行った。
「C」 実践の評価	これまで製作時は個別対応をして進めてきたが、気になる子どもたちだけを同じテーブルに集めて、少人数のグループで活動した。活動場所も保育室に限らず、空いている部屋やホールの奥をパーティションで区切って使用した。同じことを別の場所で行ったことにより、子どもたちは落ち着いて活動し、自分たちに合ったできる範囲の内容で製作を完成することができた。他の子どもと切り離してのグループ保育を行ったことで成果が見られた。保育士も、グループ保育を実行してよかったという達成感と、この子たちにもできたという驚きもあった。取り組みの内容を具体的に示すことで、保護者の理解も得られ、保護者の意識が変わり、療育センターへの相談につなげることもできた。保護者との面談や保育参観によって、共有化できた家庭もあった。
「A」 結果と 改定計画	グループ保育を保護者と共有できたことは大きな収穫と捉え、長期目標に向けて、保育士の取り組み方も整理できた。取り組みは継続し、次のステップに向けて、支援方法を明確にし、家庭と園と一緒に進められるように共有化を図っていくこととした。また、今回の取り組みを参考にして、1～3歳児にどう広げていくか検討の必要があると捉えている。

＜第三者評価コメント＞

配慮が必要な子どもに対して、これまでは、室内への入室時には時間をずらし、製作時は個別対応し、室内にクールダウンできる場所を作ることで対応してきたが、今回はグループ保育を取り入れている。取り組みは継続していることから、今後の発展に期待する。